

浜

私

幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No276

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポートサイドプレイス アネックス5F
電話 045 (534) 8708
<http://www.kids-yokohama.or.jp>
編集 横浜市幼稚園協会広報部
発行者 木元 茂
印刷所 株式会社横濱大氣堂

無償化って何?

公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長 木元 茂



▲木元 茂 会長

幼児教育無償化が いよいよ始まります!

新しい年度も始まり、保護者の皆さまもお子様も新しい幼稚園、新しい先生、新しいお友だちと、緊張しながらも新たな出会いが沢山あった数か月だったのではないか。

5月1日に令和元年がスタートしました。連休明けの5月10日に、幼児教育・保育の無償化を実現するための法律が、参議院本会議を通過し、成立しました。子育て世帯の経済的な負担軽減を図るという少子化対策と、すべての子どもに充実した幼児教育を提供することを狙いに、幼稚園、認定こども園、保育園の3～5歳の保育料を全国平均の金額を上限に無償化することになりました。実施は令和元年10月からの予定です。

市内の施設型給付の幼稚園では、横浜市の決定した25,200円／月を上限とする保育料をご家庭の市民税額に応じて、保護者の皆様にご負担いただいてきたところです。この横浜市の決定していた金額が全園児「0円」になるのが今回の無償化の具体的な姿です。しかしながら、すべての費用が無償化になるわけではありません。給食代、教材費、施設整備・維持費、冷暖房費、通園バス代、遠足等の行事費などは、これからも実費をご負担いただくことになっています。

預かり保育も無償化!

また、預かり保育についても、現在は預かり保育料をご負担いただいているが、就労などの保育要件を満たす場合は、この金額が「0円」となります。

横浜市型預かり保育については、国の無償化の基準は月64時間以上の就労要件となっていますが、横浜市の私立幼稚園預かり保育は現在の月48時間以上の就労でも、無償化の対象となるよう市独自で予算措置をしていただき、これからも今までと同じように利用できるようになっています。こ

の預かり保育の無償化対応につきましては、多くの衆議院議員、参議院議員、市会議員、そして林文子横浜市長のご理解が無ければ実現しませんでした。感謝にたえません。

一方で、今回の無償化によって、なかには「無料だから預け放題」だと考える保護者の方もいらっしゃるかもしれないということが懸念され、幼稚園協会としても心配しているところです。保護者の皆様も、新聞・テレビなどの報道でご存知かと思いますが、首都圏では保育士が大変不足していて、なかなか採用できない状況が続いています。多くの幼稚園の先生は、幼稚園教諭の免許と保育士の資格と両方を持っています。ですから、学校を卒業して就職する時に幼稚園と保育園のどちらを選択するのか、迷いながら就職活動をしているのが実情です。つまり、保育士が足りないということは、幼稚園の先生が足りないということも意味しています。また、高校生が進路を決める際に、「保育教育の分野は考えた方がいいよ。」という指導をされることもあると聞いています。実際、教員・保育士の養成校の学生数は毎年減少を続けています。また、横浜市内の保育園でも保育士が不足しているため、定員を大きく下回るお子さんしか預かれないとここ数年報告されています。今後は、先生方の給与や待遇の改善、働き方の改善、ICT化など、業界全体で取り組んでいかなければいけないという時代になってきました。

節度ある利用のお願い!

このような状況を踏まえて、各園の限られた人的資源の中で施設を運営していくためには、「無償化だからいくらでも預けてもいいんだ!」ということにならないよう、保護者の皆様の保育の必要性や必要な日数・時間に応じた利用を心がけていただくように働き掛けることや、利用実績を記録して横浜市に報告をすることなどを現在検討しています。

無償化の原資は消費税財源であり、国民の皆さんとの税金により保育料の無償化が実現できることになっています。限られた財源を皆さんとシェアできるようご理解ご協力をお願いいたします。

※無償化に関しては6月下旬には詳細情報が入る予定であります、各園からあらためてご案内することとなりますので、そちらを必ずお目通しください。

令和元年度 横浜市幼稚園大会



▲令和元年度 横浜市幼稚園大会の様子

令和元年度横浜市幼稚園大会が6月26日（水）に横浜市文化体育館で、横浜市副市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表など多数のご来賓の皆さま方のご臨席のもと開催された。

初めに、渡邊英則副会長が壇上にて開会を宣言し、続いて木元茂会長が挨拶に立ち、横浜市の幼稚園、認定こども園に長きに渡って子どもたちの育成にご尽力頂いた受彰者に感謝を述べた。そして、今年度10月から無償化が始まることにも触れた。「市の無償化の説明会も終わり、いよいよ夏休み前に手続きをしてもらうので、保護者の皆様に正確な情報提供をお願いしたい。この無償化は、保護者からみれば大幅な経済的な軽減であり、経済格差はなくなる。そのため、幼稚園は多様なニーズに応えていかなければならない。なぜ国は、このような制度を実施したのか。それは、今までの知識一辺倒ではなく、主体的に学ぶ人を

育てたいということである。他人の考えたイノベーションでは、国は豊かにはならない。私たちは、世界の潮流の中で現実を知り、次代を担う子どもたちのために、新しいイノベーションを起こしていきましょう」と呼びかけた。

スキー・由佳父母の会連合会会长からも永年勤続の先生方への感謝の言葉とともに今年度の父母の会活動の紹介がなされた。

この後、教職員の永年勤続表彰が行われ、来賓者や多数の幼稚園関係者、保護者、園児の見守る中、勤続20年、15年、10年、5年の順に登壇し、木元茂会長から各代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続50年、40年、35年、30年、25年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢437名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえられ表彰された。

さらに、勤続20年、15年の教職員に対しては横



▲木元茂会長 挨拶



▲スキー・由佳 父母の会会長挨拶



▲長山佐希子 父母の会副会長による大会宣言



▲荒木田百合横浜市副市長より祝辞



▲横山正人横浜市会議長より祝辞



▲中島陽子先生より謝辞

浜市長表彰が行われ、荒木田百合横浜市副市長より代表者に表彰状と記念品の授与とともに「日頃より横浜の子どもたちの教育に熱心に取り組んでくださいありがとうございます。」と感謝の言葉を頂いた。続いて横浜市会議長からもお祝いの言葉を頂いた。

長山佐希子父母の会副会長より大会宣言が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択され、後日、横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に永年勤続表彰を受けた教職員を代表して中島陽子先生（野毛山幼稚園）が謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、清水純也副会長が閉会の辞を述べて、本年度の横浜市幼稚園大会は閉幕した。



□令和元年度 横浜市幼稚園大会 表彰者人数

勤続年数	人数
5年	192名
10年	117名
15年	65名
20年	27名
25年	19名
30年	7名
35年	5名
40年	4名
50年	1名

令和元年度 横浜市幼稚園大会 大会宣言 R1.6.26

私たち横浜市幼稚園協会加盟園の教職員と父母の会連合会の保護者10万余名は、『ふみだせ令和へ 輝け子どもの未来』のテーマのもとに、令和元年度横浜市幼稚園大会を開催いたしました。

私たちは、横浜の子どもたちが心身ともに健やかに成長するために、家庭教育の向上、安全な社会の構築を願っています。さらに、幼児教育の振興を図ると共に、お互いに手を携え生きる力を育むため、最善の生活環境を整えるべく努力し続けることを宣言します。

- 一、人としての教育の原点は家庭にあることを常に意識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心できる場であるよう努めます。
- 一、地域社会に参加することにより、人々との輪をひろげ、互いに関心を持ってより安全な社会を目指し、子育てしやすい環境作りに努めます。
- 一、心豊かな子どもを育むため、私立幼稚園・認定こども園の教育を通して「生命（いのち）の尊さ」「人と人の絆」「思いやりの心」を親子で学びあい、成長していくことに努めます。
- 一、現在の子どもの健やかな成長が、豊かな実りある未来を作る原動力になるとの確信のもと、横浜市内全ての私立幼稚園・認定こども園に子どもを通わせている保護者の代表として、上記のことを実現するために全ての子どもが等しく、更なる質の向上を伴った教育・保育の恩恵を受けることを切に願い、市長・市議会及び行政当局に訴え働きかけます。

令和元年6月26日 令和元年度横浜市幼稚園大会

幼稚園大会とは

この横浜の「幼稚園大会」は、昭和三十六年度の第一回開催から優に半世紀を超える歴史を持っている伝統ある行事である。当初は「先生の日大会」という名称であった。当時はまだ物資のない頃で、先生たちは工夫しながら教材作りに励み、保育の充実をはかっていた。そうした先生たちの努力をたたえ、またこれに感謝し、さらに励ますことを目的として、「先生の日大会」は始まった。やがて保護者の方にもご参加いただき、名称も「幼稚園大会」に改めた。会場も横浜文化体育館とし、教職員・保護者三千名が参加する、名実ともに横浜の幼稚園にふさわしい大会となった。「幼児期における教育の重要さを広く市当局や市民に訴えること」も趣旨の中に盛り込まれた。市長表彰も行われるようになった。これは、幼児の成長、発達に欠くことのできない集団教育を、横浜市はすべて私立幼稚園の教育に委ねていることから始められた。

幼稚園の役割

現在、横浜に限らず、子育てにおける幼稚園の果たす役割は非常に大きい。横浜型の預かり保育は朝7時半から夕方6時半まで子どもたちを預かり、働く保護者のサポートしている。また地域の子育て拠点として、相談相手のいない若いお母さんの悩みや疑問に答えたり、子育てのちょっとしたアドバイスをしたり、ノウハウを伝えたりしている。園庭の開放や学童保育の方面までカバーする場合もある。今やますます難しくなっている子育ての諸々の問題に正面から向き合っているのが幼稚園だと見える。

地域に密着し、それぞれの環境の中でよりよい子育の道を模索する日々が現在も続いている。

横浜市幼稚園新規採用教員研修会

～5月8日(水)～神奈川公会堂～

横浜市こども青少年局
保育・教育人材課 永野 理英子

令和元年5月8日(水)、「横浜市幼稚園新規採用幼稚園教諭研修会」が開催され、新規採用された幼稚園や認定こども園の先生方210名が参加しました。

第1部は、採用2年目の先輩教諭3名に体験談を話していただきました。3名からは、「自分に余裕がなかったときに自分を見つめなおし、保育の楽しさが改めて感じられた」「様々な個性をもった子ども一人ひとりを受け止め見つめることで、子どもも自分自身も自信がもてた」「先輩教諭から学び、子どものよさを引き出すことで、子どもの成長が感じられた」と実感ある体験が語られました。誰もが経験する悩みと、教諭としての喜びなどを具体的に語っていただいたことで、新規採用の皆さんも励まされたのではないかと思います。



先輩方の体験談がとても共感できて、すごくうれしかったです。どんな苦難がある、どんな努力で乗りこえられたのか、実際に体験しているからこそ、話の内容が分かりやすく思いました。自分も今分からないことだらけでゆとりがなく、100%の気持ちで子どもたちと遊べていない自分自身が嫌になっているのですが、笑顔で楽しく話せるようになりたいと思いました。子どもたちの笑顔を目指してより頑張りたいです。



研修会には、東京未来大学の赤坂栄先生を講師としてお迎えしました。

赤坂先生には、第1部の最後に、3名の先生方への励ましの言葉をいただき、引き続き第2部でご講演をいただきました。



「子ども理解から始まる保育～面白がることは誰も教えることができない～」という演題で、多様な保育者の役割の中でも幼児理解が大切であることを、子どものエピソードや動画から、子どもがしていることには意味があると実感できる具体的なお話をいただきました。

また、日々の保育を振り返り、同僚と語り合うことの大切さや、一人ひとりの幼児の思いを大切にした保育に向けて先生方が毎日を楽しむことが大切であることを熱く語ってくださいました。



最初に赤坂先生があっしゃってくれた「知ることは愛だ」という言葉がすごく心に残りました。もっともっと子どものことを愛をもって知っていこうと思います。子ども同士が学びあうための環境づくりや援助をすることが大切だと思いました。

8月1日、2日にも、
新規採用幼稚園教諭対象の
実技研修などが行われる予定です



お知らせ

～保護者と共に～

「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携フォーラム

令和元年12月14日(土) 南公会堂

①幼児教育・幼保小連携、アプローチ・スタートカリキュラムの重要性を子どもの姿で発信

②幼保小連携推進地区の地域に応じた多様な取組をポスターーションで発信

③文部科学省 渋谷一典先生、河合優子先生のご講演

■ 対象者：幼稚園・保育園・認定こども園・小学校等の教育・保育関係者、保護者

申し込み方法：横浜市こども青少年局ホームページに後日掲載します

横浜市>暮らし・総合>子育て・教育

>保育・幼児教育>保育・教育の質向上

>幼保小連携

フレー！フレー！子育て

横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員 飯塚 史

長かった1学期もそろそろ終わりが近づいてきました。もうすぐ夏休みですね。新年度からの約3ヶ月間はいかがだったでしょうか。

新しい友だちや先生に囲まれて、ワクワク楽しい日々を過ごされたお子さんも、毎日ドキドキで思うように慣れず、行きたくないと泣いていたお子さんもここで小休止ですね。登園渋りだけでなく、なかなか友だちができないみたい、新しいお友だちと上手くいかずに喧嘩ばかり、集団行動について行かれないとなどなど、心配の尽きない1学期を過ごされた保護者の方もいらっしゃるかもしれません。1学期間、本当にお疲れ様でした。

家族療法というカウンセリング技法の中に「リフレーミング」という言葉があります。臨床心理学辞典には「クライエントの言動や症状を枠付けしなおす」という意味とありますが、よく聞く例えで言えば、コップ半分の水を「もう半分しかない」と思っていたのを、「まだ半分もある」と考えることで、問題の意味の捉え方を変えることで、状況そのものが変化しなくとも、違った仕方で体験され始め、問題に対して積極的に向かっていくことが可能になるという考え方です。

例えば、行きたくないと泣くお子さん。親としてはそれで登園させなければならないのは切ない限りですが、それは園が嫌な場所であるのではなく、おうちの居心地がよく、お母さんやお父さんとの絆がしっかりとできているということでもあるかと思います。おうちが安全基地になっているということです。お友だちとのトラブルも自分の好きなことや、やりたいことがしっかり育っているからこそ、相手とぶつかってしまうのではないかと思うか。なかなかお友だちができないお子さんは、繊細で非常に豊かな感性の持ち主なのだと思います。あるいは自分のことしか見えていなかったところから少し視野が広がり、いろいろと気づいて考えてしまうがゆえに一步を踏み出せないのかもしれません。集団行動についていかれない場合は、自分のペースを守って何とかやろうとしていることもあります。

1学期に心配だと思ったお子さんの様子をリフレーミングによって別の視点で捉え直し、「うちの子はこんな良いところがあったのか」「こんな風に成長したんだね」とプラスに考えておおらかに過ごすことで、お子さんにもそのプラス思考が伝染し、のびのびしてくると思います。子どもの心は親の鏡なので、親が悩んでいると、子どももなん

となく不安定になってしまいます。保護者の方にとっては大変でもある夏休みではありますが、何かに追われることなく、ぜひお子さんと一緒にのんびりと過ごしていただければと思います。一人で考えるとリフレーミングがうまくいかない場合、ぜひ子育て教育相談室にお電話ください。どんな風にリフレーミングできるか一緒に考えましょう。また「リフレーミングだけではどうにもならない」という場合ももちろんあると思いますので、その場合もぜひ一緒に考えましょう。

忘れてはならないのは、どの子どもたちも、生まれてまだ3年、長くても6年しか経っていないのです。この子どもたちが20才、30才になって社会に出たときに、今のこの心配はどうなっていると思いますか。おそらく「あの時は大変だったんだよ」と笑ってお話をできるのではないか。よくよく考えて見たら、保護者の方々にも思い当たるエピソードがあるのではないか。かくいう私も、保育園時代、2歳児クラスに上がって教室が2階から1階に替わり、その約1ヶ月後に妹誕生ということが重なったからか、毎朝大泣きして登園を渋っていました。「行きたくない！」と柱にしがみついた指1本1本を母に剥がされて車に乗せられること、職員の方におんぶされながら「泣いているとお母さんはお迎えに来てくれないよ」と言われて余計に泣いたこと、などいまだに覚えています。これが幼少期の一番初めの記憶というのが悲しくはありますが、そのことが今の自分的人格形成に大きく悪影響を与えたかといえば、そのようなことはないと思っています。

今の心配事はずつとは続きません。どうか気持ちを楽にするためにもお電話してくださいね。お待ちしています。

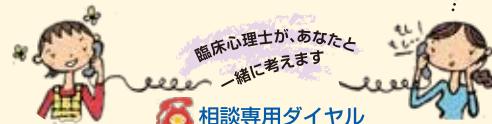
子育て教育相談室

【相談日】

毎週火曜日・金曜日（年末年始、祝祭日を除く）

【受付時間】

10時～12時 13時～15時

ひとりで
相談
ひきあいで

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会
<http://www.kids-yokohama.or.jp> TEL 045-534-8708

父母の会の組織と活動

弛まずに恩送り活動を繋いで行くこと

平成30年度 横浜市幼稚園協会父母の会連合会
会長 ジリリさおり

父母の会連合会の活動に参加させて頂いてから、早いもので二年の月日が過ぎ、私は娘の卒園と共に卒業となりました。

活動内容を振り返ると、幼稚園大会の運営、父母セミナーの企画・運営、横浜市議会への陳情と要望活動、ザンビア共和国への靴寄付の活動他、多岐に渡り、素晴らしい出会いと、学びの多い時間を過ごしました。

私たちの活動は、これまで歴代の皆様が努力を積み重ねてバトンを次へと繋いできたものです。その一つが今年の十月より実を結ぼうとしています。保育料の無償化への移行です。

保護者の私たちが手を取り合い、声を上げることで、地域で助け合い子どもたちを育てていける環境作りを活性化させるのです。

その中で育まれていく子どもたちが、将来保護者として、また「恩送り」というバトンを繋いでいくことでしょう。

私はこれからも微力ではありますが、次世代を担う子どもたちへの恩送りを、弛まぬよう続けて行きたいと思います。

父母の会連合会では、今後も親子の幸せと子どもたちの限りない成長を守るため、活動を行って参ります。皆様のご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げるとともに、是非とも父母の会の活動にご参加くださいますようお願い申し上げます。

平成30年度父母の会事業報告

5／15 ◆第1回 総会



◀5月 総会

6／4 ◆父母の会5役 打ち合わせ



▲陳情活動

6／12 ◆自由民主党、公明党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い



◀幼稚園大会 会長挨拶

6／19 ◆民権フォーラムへ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い

6／20 ◆幼稚園大会（横浜文化体育館）参加人数 教職員・保護者 2,319名

7／5 ◆政令市私立幼稚園団体協議会 京都大会参加



●父母セミナー

9／14 ◆父母セミナー（鶴見公会堂） 参加人数 510名

「戦わないコミュニケーション」

～コントロールを手放し、イライラとうまく付き合うには～

講 師 山崎 洋実先生



11／8 ◆常任委員会の開催

11／13 ◆県連父母の会連合会研修大会

(パシフィコ横浜 会議センターメインホール) 参加人数 横浜協会より 372名

「今こそ手塩にかけて～幼児教育の大切さ～」 講 師 尾木 直樹 氏

12／10 ◆PTA全国大会（ホテルニューオータニ） 参加人数 横浜協会より 49名

1／29 ◆新年意見交換会（ロイヤルホールヨコハマ）

参加人数 293名（父母の会より 6名）

会員、父母の会、市長、国会議員、県市会議員、市行政関係者等

2／21 ◆父母の会監査

3／5 ◆第2回 総会



●新年意見交換会



令和元年度
横浜市幼稚園父母の会連合会
役員紹介

監事

横浜れんげ幼稚園
千葉 芳枝

会計

認定こども園はらのこ原幼稚園
川瀬 友美副会長
杉之子幼稚園
萱野 万紀子会長
橋幼稚園
スキーツ 由佳副会長
八幡橋幼稚園
長山 佐希子

▲ザンビアのこどもたちへ支援のためのポスター

第27回父母セミナーのお知らせ

令和元年9月13日(金)

午前10時20分～12時10分(受付10時～)

会場／港北公会堂

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1

テーマ

収育

～お片づけができる子どもにする方法～

講師：収納王子コジマジック氏

(一般社団法人日本収納検定協会 代表理事 他)

講師紹介：片づけ・収納・住まいに関する確かな知識と実績を持つプロでありながら、松竹芸能で25年の芸歴を積んだ、主婦層に圧倒的な支持を受ける男性ライフスタイル系タレントのパイオニア。

収納に“笑い”を取り入れたセミナーが話題となり、年間講演依頼数は200本以上、著書は累計40万部を超える。



※詳細、お申込みは各園への開催案内をご覧ください。

“絵本の散歩道”

横浜市幼稚園協会のホームページに、“絵本の散歩道”というコーナーがあります。そこでは、現場の先生が選んだ絵本を紹介しています。実際に子どもたちと絵本を楽しんでいる様子などを交え絵本を紹介しております。お子さんとの絵本選びの参考にしていただけたらと思っています。ぜひご覧ください。



横浜市幼稚園協会





幼稚園こぼれ話



上白根幼稚園 園長 岩崎 泉



4月の入園・進級から3ヶ月がたちました。最初はどうなることやらと気をもんだ新学年の生活も、ようやく落ち着き始め、それなりにペースもつかめて来たのではないかと思います。年長組さんなどはどんどん自分たちで動いて、新しい遊びを考え出したりしています。

今日は、この一学期、子どもたちがどんな様子で生活していたのか、先生たちの〈声〉に少し聞き耳を立ててみたいと思います。どんなエピソードが飛び出してくれるでしょう。さあ、始めますよ。

園庭で他の学年と混じりながら遊んでいるうちに、落ちている木の実で色水を作れることを知った年少の子どもたちは、ジュース作りやケーキ作りに熱中しています。Aくんも手をむらさき色にしながら真剣に遊んでいました。この子は一度好きなものを見つけると集中して、ずっとやり続けます。しかし、うまく遊びが見つけられない日は泣いてしまったり、お部屋にすぐ戻れなったりします。そして、今日は笑顔ですぐにお部屋に入れました。よく遊び込むことの大切さを改めて感じました。みんなに、熱中できるものを見つける手助けをしていきたいと思います。(年少組)

先週からなかなか長い時間外で遊ぶことができずになりましたが、今日はまとまった時間遊ぶことができました。気温も上がって、水遊びを楽しむ子どもも出てきています。家庭ではなかなかできない遊びを思いきりやらせてあげて、水の心地よさを感じさせ、楽しませながら、水の大切さから怖さに至るまでテーマを繋げていきたいと思います。(年少組)

今日は水曜日でお帰りが早く、行事もあったため、お支度がゆっくりな子は降園時刻ギリギリになってしまふ終わっていました。すると、困った様

子の子がいるのに気づいた子どもたちが「手伝う！」と言って、帰りのお仕度の手伝いや部屋の片づけをしてくれました。自分のことだけでなくお友だちのことときちんと見ていて、困っていれば助けようとする気持ちのやさしさに思わず胸が熱くなりました。(年中組)

雨は上がっていましたが、何となく部屋での遊びが始まっていたので、そのまま遊びました。今までの続きで段ボールで遊んだり、友だちがやっているのを見て真似して新しく遊びを始めたり、いろいろやっていました。お昼近くなり声をかけると、「お外に遊びに行くの忘れてた！」と返事が返ってきて、本当に集中して遊んでいたのがよく分かりました。この後、年少組にお昼の手伝いをしに行きました。達成感や充実感があったようで、満足そうな顔をして帰ってきました。今日もいい一日を過ごせました。(年長組)

さあ、皆さまいかがでしたでしょうか。楽しんでいただけましたか。

では、よい夏休みを！



編一集一後記

長いゴールデンウィークの中で年号が平成から令和に変わり、新たな風が吹いてきました。秋には保育の無償化がスタートします。これから、ますます幼児教育・保育の質の向上が求められることだと思います。子どもたちがより良い環境・教育の中、伸び伸びと成長できることを心から願っています。

広報部 横内 博子